

行政視察報告書

参加議員	議会だより編集会議 会長 山本武朝 副会長 柿崎孝治 委員 小熊ひと美 山田千里 奈良祥孝 村川みどり 里村誠悦
調査期間	令和8年7月31日（金）
調査先及び 調査事項	大阪府八尾市 「議会報について」

視察概要

■ 調査先	大阪府八尾市
■ 調査事項	議会報について
■ 調査内容	1 調査日 令和8年7月31日（金） 2 調査目的 中核市議会議長会「第21回議会報コンクール」において審査員特別賞を受賞した八尾市議会の取組（若年層の巻き込み、誌面デザイン等）を調査し、本市議会だよりの紙面づくりの参考とするため。 3 対応者 八尾市議会 副議長 南方 武 八尾市議会事務局議事政策課 主査 生野 あゆみ 八尾市議会事務局議事政策課 係長 浅野 佐和 4 はじめに 大阪府の中東部に位置する八尾市は、人口約25万7千人、面積41.72平方キロメートルの中核市である。古くから「ものづくりの街」として発展し、歯ブラシ生産は日本一のシェアを誇るほか、最先端技術を有する事業所が集積している。また、伝統文化である「河内音頭」の発祥の地としても知られ、2017年には盆踊りのギネス世界記録を樹立するなど、地域文化を大切にしながら持続可能なまちづくりに取り組んでいる。八尾市議会では、「見やすく、読みやすい」誌面づくりを心がけ、高校生や大学生との座談会を通じた市民参画の促進や、SNS・ポスターを活用した多角的な情報発信を行っている。 5 調査事項の説明 (1) やお市議会だよりの概要と制作体制 昭和33年に創刊された、やお市議会だよりは、年5回（定例会4回、臨時会1回）発行され、発行部数は1回あたり14万部である。最大の特徴は、平成11年よりやお市政だよりと合冊形式で全戸配布している点にある。これにより、配布コストの削減

（議会側の費用負担なし）と、市民の日常生活に自然に情報が入り込む仕組みを実現している。制作面では、事務局職員 3 名が A d o b e の I n D e s i g n、P h o t o s h o p、I l l u s t r a t o r を駆使し、レイアウトから記事作成、データ編集までの作業を全て内製化している。これにより、専門業者への委託は印刷・製本のみに留め、経費節減と柔軟な誌面構成を両立させている。

（２）伝わる誌面へのリニューアルと工夫

基本方針を「“伝える誌面づくり”から“伝わる誌面づくり”へ」と定め、視覚的訴求力を重視している。平成 24 年に大幅なリニューアルを実施した。個人質問及び代表質問のページでは、議員の顔写真や名前、ルビを表記し、質問と回答の対面方式を意識したレイアウトを採用している。余白を意識的に確保し、文字ポイントの拡大（10 ポイントから 11 ポイントへ）や、グラフ・イラストを多用することで、読み手の負担を軽減している。各議員の質問記事の横に Q R コードを配置し、クリック一つで当該議員の質問動画（録画中継）へ誘導する工夫がなされている。

（３）若年層の巻き込み「市議会×高校生プロジェクト」

平成 29 年度より、主権者教育と議会への関心向上を目的に、市内高校 5 校とのコラボレーションを実施している。表紙・特集企画：高校の部活動の作品や活動写真を公募して表紙に採用し、裏表紙では編集委員による学生へのインタビュー記事を掲載している。未来会議と題した座談会を継続的に開催し、学生から出された議員名へのルビ振りや S N S 活用などの意見を実際の誌面や広報活動に反映させている。

（４）S N S 及びポスターによる広報

情報の即時性を補完するため、F a c e b o o k や X（旧 T w i t t e r）を平日毎日更新し、会議日程や議会の豆知識を発信している。また、事務局職員自らがデザインする議会開会ポスターを庁内に掲示し、議会の認知度向上を図っている。

6 質疑応答

問：青森市は人口減少が進んでいるが、八尾市の人口推移はどうか。

答：本市の人口も減少傾向にあり、現在は約 26 万人弱となっている。市民意識調査では「市議会に関心がない」という層が依然として 5 割を超えており、この数値を下げるのが広報活動の大きな目標である。広報紙だけでなく、ポスターや S N S など多様なツールを組み合わせ、議会の認知度を地道に向上させていく必要があると考えている。

問：一般質問や代表質問の記事に使用する写真は、毎回撮影しているのか。

答：そのとおりである。各議員が質問に立っている様子を事務局職員が毎回撮影し、その定例会の今が伝わるライブ感を重視して掲載している。

問：広報紙のレイアウト案や特集記事の内容は、誰がどのように決定しているのか。

答：定例会の概要や委員会審査など、定型的なページは事務局がベースを作成する。

一方、余白を活用した特集記事や特定の企画については、編集委員会（副議長及び各会派代表の 8 名で構成）で協議して決定する。具体的には、議員にアンケートを実施して、どのような内容を書きたいかを集約し、その中から事務局が調整・選定するプ

ロセスで行っている。

問：閉会から発行までのスケジュールが非常に短い、事務局内での具体的な作業の進め方は。

答：発言通告が出た時点で議員数に応じた大まかなページ割り振りを決定し、会期中から並行して編集作業を開始している。さらに、編集委員会を計3回開催し、その場でレイアウトや原稿内容の合意形成を迅速に行うことで、この発行スピードを維持している。

問：事務局職員3名による作業の現状について

答：A d o b e の I n D e s i g n 等を使用しているが、現在の担当者も異動当初からスキルがあったわけではなく、過去のデータをベースに独学で習得した。一般的なワードやパワーポイントのスキルがあれば、3名で分担することで運用可能である。専門業者へデザインを委託せず、印刷のみを発注することで、経費の大幅な抑制と柔軟な紙面改訂を両立させている。

問：やお市政だよりとの合冊形式は、予算負担の面でどのようなメリットがあるのか。

答：最大のメリットは配布コストである。全戸配布にかかる委託料（年額約3400万円）はやお市政だよりの担当課が一括して負担しているため、議会側は配布に関する費用負担が一切ない。もし議会単独で全戸配布を行うことになれば多額の予算が必要となるが、現状は合冊のおかげで、印刷・製本等の直接経費（年額約1200万円程度）のみで運用できている。

問：SNSの活用について、X（旧T w i t t e r）やF a c e b o o kが中心だが、I n s t a g r a mやT i k T o kへの展開は検討しているか。

答：若年層にはそれらが主流であることは認識しているが、動画や写真の加工に手間がかかるため、現在は平日の毎日更新を優先し、XとF a c e b o o kに留まっている。座談会に参加した大学生からも、文字ばかりではなく動画や、はやりの形式を取り入れるべきとのアドバイスを受けており、今後の検討課題としている。

問：SNSでの発信内容は、どのようなものを投稿しているのか。

答：会議日程の告知といった事務的な情報だけでなく、議会の豆知識やユーモアを交えた投稿、事務局職員がデザインした開会ポスターの画像などを発信している。事務局内で決裁を取り、職員が毎日交代で投稿することで、親しみやすい議会像の発信に努めている。

問：議会開会ポスターの制作は、どのような経緯で始まったのか。また、掲示場所は。

答：編集委員会の中で、より多くの方に議会の開催を知ってもらいたいとの意見があり、事務局職員が自作し始めた。庁内の掲示板等に掲示している。定例会ごとに毎回新しいデザインを作成しており、職員の自由な発想が反映されている。

問：高校生・大学生との座談会を通じた、主権者教育としての手応えは。

答：座談会参加後のアンケートでは、参加学生の投票意欲は毎回100%となる。学生からの「議員名にルビを振ってほしい」「SNSをもっと活用すべき」といった意見を実

際に誌面や広報活動に反映させており、単なるイベントに終わらず、双方向の広報を実現している。また、座談会前には議員が大学へ出向き、議会の仕組みについて事前講義を行うなどの連携も深めている。

問：議会だよりに綴じ穴が開いているが、これは市民からの要望か。

答：少なくとも 20 年くらい前から継続しており、保存を希望する市民の利便性を考慮したものである。データ作成時も、パンチ穴の位置が文字に重ならないよう配慮してレイアウトしている。